

農政の動き 2015年10月30日～11月6日

◇15肥料年度 春肥の価格高度化成は0.6%高◇

J A全農は11～5月に適用する2015肥料年度春肥の主要品目価格を発表した。複合肥料の高度化成（一般）は、15肥料年度秋肥比0.6%高となった。チッ素とリン酸の値上がりがかりの値下がりを上回ったため。一方、水稻基肥一発施肥に用いる高度化成（被覆尿素入）は、ナフサ価格の値下がりにより被覆資材コストが下がり、0.3%値下げした。硫安は0.6%高となり、全農は、割安な細粒品や尿素の使用を提案するとしている。（2015年10月30日）

◇温室効果ガス 削減目標実行でも気温2.7度上昇◇

国連気候変動枠組み条約事務局は30日、世界146カ国が既に公表した温室効果ガス削減目標を実行したとしても、今世紀末の世界の平均気温は2.7度上昇する恐れがあると発表した。ベルリンで記者会見したフィゲレス事務局長は「主要国の目標が出そろったのは歴史的成果だ。正しい方向に向かっているが、気温上昇を2度未満に抑えるという国際目標の達成には十分でない」と話し、各国にさらなる努力を促した。（ベルリン31日共同）

◇日中韓首脳 F T A交渉加速へ努力で一致◇

日本と中国、韓国の3カ国首脳は、韓国・ソウルで会談し、自由貿易協定（F T A）交渉の加速に向けて一層努力することで一致した。会談で、安倍晋三首相は、日中韓F T Aと東アジア地域包括的経済連携（R C E P）は「東アジア経済統合の重要な柱」と強調。包括的かつ高いレベルの協定の早期妥結に向けて、引き続き精力的に交渉を進めていく旨を述べた。（11月1日）

◇10月の日照時間 西日本で統計史上最多を記録◇

気象庁は10月の天候の特徴をまとめ、公表した。大陸からの移動性高気圧に覆われることが多く、月間日照時間はかなり多くなった。特に西日本の日本海側と太平洋側では、統計開始（1946年）以来、10月の最多を記録した。（2日）

◇常温保存可能な牛肉製品 豪州向け輸出解禁◇

農林水産省は、レトルトカレーや缶詰製品など常温保存可能な牛肉製品のオーストラリア向け輸出が解禁されたと発表した。条件は、①日本で出生・飼養・と畜された牛由来の肉を使用②今年9月4日以降に製造③密閉容器中で加熱殺菌して冷蔵不要——など。なお、輸出には、豪州農業省に申請し、輸入許可を得る必要がある。（5日）

◇エコファーマーネットが千葉県で全国交流会◇

エコファーマーを中心に組織する全国エコファーマーネットワークは、千葉県成田市で全国交流会を開催。農業者など88人が参加し、栽培や流通の先進事例を報告、環境保全型農業の一層の推進を確認した。（5日）

◇オバマ大統領 T P P署名の承認へ手続き開始◇

オバマ米大統領は5日、環太平洋連携協定（T P P）に署名する意向を議会に通知し、承認を得るた

めの手続きを始めた。米国では、議会への通知から少なくとも90日過ぎないと政府は通商協定に署名できない。TPPに参加する12カ国の署名がそろい最終合意するのは来年2月以降となる。署名後に協定案を議会に提出するが、TPP反対の議員も多く、審議入りまで曲折がありそうだ。(ワシントン6日共同)